

シ ッ プ
地域支援センターSHIPです！

地域支援センターSHIPは、麻生支援学校の「教育相談・地域支援担当(教育相談コーディネーター、自立活動教諭)」「移行支援担当」の教員で構成されています。SHIP通信は、主に『地域支援センターSHIP』の事業に関するお知らせを掲載しています。

特別支援学校の専門性を生かし、様々な事業を通して地域の子ども、保護者、先生方を支援します。子どもたちが安心して自分らしく、いきいきと過ごせるようサポートしていきます。

★「SHIP(シップ)」の名称の由来★

笑顔(Smile) 希望(Hope) 関わり(Interaction)を、支援の必要な子どもたちへ(For People with special needs)という思いを込めています。子どもたちが自信をもって社会の大海原へ出て行くことができるように支援します。



教育相談・地域支援担当から

教育的ニーズとは

子どもたちは、「授業が分からない」「みんなが自分のことを分かってくれない」等、様々な悩みや課題を抱えるとともに、その解決に向けて自分自身の力で何とかしようと努力しています。このような子どもたち一人ひとりの持つ独自の課題が、その子どもの「教育的ニーズ」です。学校教育では、こうした子どもたちの努力について、直接間接を問わず、その子どもたちに合った方法で働きかけをしていくことが必要です。また、子どもの教育的ニーズは、子どもが学ぶ環境との関係によっても生じています。ですから、教育的ニーズに対する支援は、子ども自身の持てる力を伸ばすことで困難さを克服しようとするだけでなく、周囲の理解や指導の工夫、柔軟な教育システム、適切な環境設定等、周囲との関係を見直していくことも大切です。

令和5年3月 神奈川県総合教育センター発行「教育相談コーディネーターハンドブック」より抜粋

校内の教育相談コーディネーターと自立活動教諭が窓口となり、子どもたちの教育的ニーズに応じて校内や地域の支援機関と連携した様々なサポートを行います。

令和7年度のメンバーは

○支援連携グループリーダー ど ひ
土肥

○教育相談コーディネーター こばやし
小林

○自立活動教諭 作業療法士 ほん ま
本間

○自立活動教諭 理学療法士 まわたり
馬渡

教育相談コーディネーターとは・・・

校内、校外の相談窓口です。地域の支援機関との調整役を行っています。

作業療法士とは・・・

学習や生活、遊び、手先を使った動作など様々な活動の支援と一緒に考えていきます。

理学療法士とは・・・

身体の特徴を捉え、補装具(車いすなど)などの環境設定について一緒に考えていきます。

です。よろしくお願いいたします。

相談方法

① 電話相談

電話でお話を伺います。匿名でも相談をお受けします。

② 来校相談

来校していただき、直接お話を伺います。

③ 学校訪問相談

地域の学校等から要請を受けて訪問します。

子どもの様子や課題を見立て、先生方と一緒に支援方法を検討します。



麻生支援学校

受付時間 9:00-16:30

(土日、祝日等はのぞく)

電話番号:044-980-4854

担任を通しての相談依頼も可能です。「少し話したいな・・・」と思ったらぜひお声かけください。

地域との連携・ネットワークづくり

学校と地域の連携窓口のひとつとして、福祉機関や医療機関と連携しています。

また、次のような役割も担っています。

○ 地域の専門職との連携

地域の療育センター（PT・OT 等）や近隣の県立特別支援学校の専門職（PT・OT・ST・心理職）等と日常的に連携し、子どもたちの教育的ニーズに合わせて支援しています。

○ 公開講座・研修会の実施

教職員、保護者、関係機関職員を対象に、特別支援教育に関する研修会を実施しています。

※今年度の実施につきましては、決定次第、学校HPや配付チラシ等でお知らせします。

○ 協議会等への参加

自立支援協議会等、地域の協議会や連絡会に参加して関係機関との連携やネットワークづくりをしています。

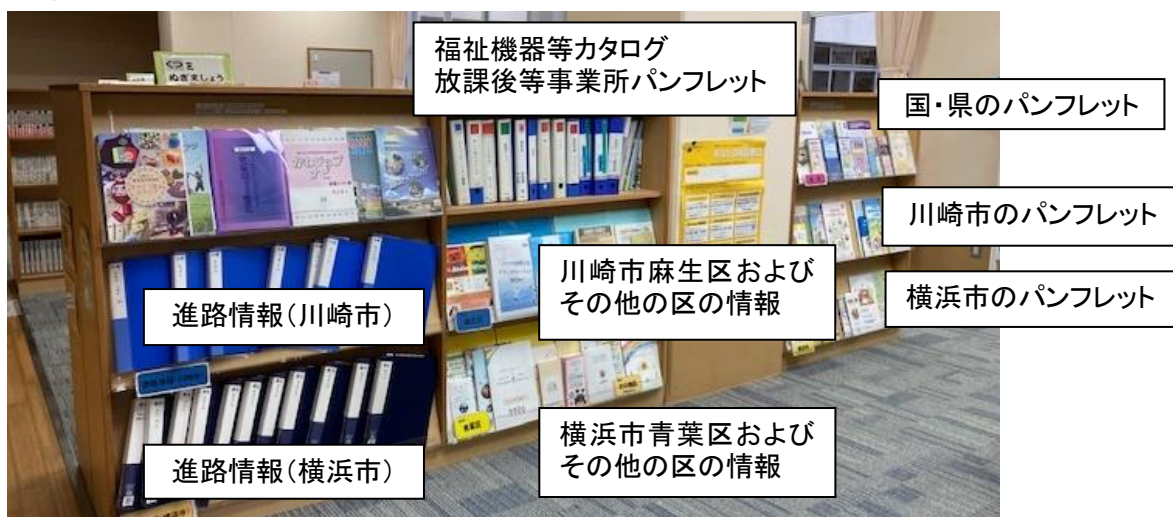
情報コーナーの紹介

本校1階昇降口前の図書コーナーに、福祉事業所のパンフレットや地域の広報誌を置いています。奥の壁側にある掲示板とラックは、特別支援教育に関する研修会やイベント等のお知らせ・チラシを掲示しています。

次頁に情報コーナーのレイアウト写真を掲載しましたので、お越しの際にはぜひ御覧ください。



《情報コーナー（麻生校舎 1 階昇降口前）》



移行支援担当から

【令和7年度のメンバー紹介】

麻生校舎担当が ^{まき}牧、^{おおはし}大橋、^{うめはら}梅原、分教室担当が ^{ふちがみ}淵上 の計4名です。

どうぞよろしくお願いいたします。

進路について、いろいろわからない事、不安な事があると思います。ささいな事でも大丈夫ですので、御質問等ありましたら、遠慮なく連絡帳や直接お電話等でお問い合わせください。

令和6年度卒業生の進路先

昨年度の卒業生の進路先についてお知らせします。

昨年度も現場実習等で御本人の持っている力を発揮できたことや、保護者の皆様の多大な御協力を頂くことで進路先を決めることができました。

麻生校舎A部門(在宅訪問、施設訪問含む)の生徒だった2名は、進路先が生活介護事業所1名、施設入所1名となりました。生活介護事業所利用に関しては、肢体不自由の方(車いす利用)の受け入れができる施設は多くはなく、医療的ケアのある方を受け入れることができる施設はさらに少なくなります。受入状況はその年により変わりますが、昨年度は2～3ヶ所実習した事業所で受入の検討をしていただきました。

麻生校舎B部門の生徒だった22名の内訳としては、企業就労2名、福祉施設として就労継続支援B型事業所5名、生活介護事業所12名、自立訓練事業所1名と、その他2名となっています。前期実習、後期実習ともに実習に向けて、目標を担任の先生と一緒に考えたり、面接練習をしたりとみなさんの前向きに頑張る姿勢がみられました。

生活介護事業所の通所に際して、保護者の方々が特に気になるであろう事業所の送迎車の利用ができるかどうかは、通所利用が決まってからその後、事業所との相談になります。通所利用自体も簡単ではないですが、送迎車の利用についても依然として厳しい状況ではあります。昨年度は、年度途中で新しい福祉施設ができることがわかり、3年生になってからでも新施設の紹介や見学について進路面談等で相談させてもらうことが数件ありました。状況によって、実習先を変更していくなど柔軟に検討できると良いと感じることもありました。

元石川分教室の生徒15名は、進路先が企業就労10名、福祉施設として自立訓練事業所通所2名、就労継続支援B型通所3名となっています。進路先について自己選択、自己決定を大事にし、全員の卒業後の進路先を決定することができました。

福祉事業所通所の卒業生へのアフターフォローとして、夏季休業期間中に元担任が様子を見に伺う予定です。学校での生活から進路先にどのように移行しているか見学し、御本人の様子などをお聞きしています。卒業後のスムーズな移行がなされ、頑張っている、成長している姿を見ることができる貴重な機会となっています。また、企業就労された卒業生へもアフターフォローとして進路先の企業と連携をとっています。

サタデーセミナー

今年度のサタデーセミナーは、「障害者基礎年金について(仮)」です。12月初旬の土曜日開催を計画しています。2学期に改めてお知らせを配付いたします。奮って御参加ください。